

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190600116		
法人名	社会福祉法人ナイスランド北方		
事業所名	グループホームきたがた湖山亭		
所在地	佐賀県武雄市北方町大字志久4531番地18		
自己評価作成日	令和3年2月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp</a>
-------------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和3年3月19日	外部評価確定日	令和3年4月13日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>「自分らしく、ほがらかに」の理念の基、入居者様の立場に立って、いつまでも自分らしく、ほがらかに、のんびり安心して暮らせる環境づくりを目指して、日々の支援に取り組んでいます。昨年より新型コロナウイルスが感染拡大し、苑外活動などの外出支援やご家族様との面会も自由に出来なくなり、我慢比べのような状態が続いています。利用者様は体力的、精神的に影響を受けておられ、そこで私たち職員が、どんな状況であれ利用者様に笑顔で過ごしていただけるように、工夫しながら支援に当たっています。認知症対応型ということで、職員は勉強会などを通じて認知症についての知識や理解を深め、職場内で共有し、ケアの向上に努めています。</p> <p>私達、湖山亭つばめユニットの共同空間から観える景色は、自然豊かで四季折々の風景を楽しむ事ができます。利用者様には「どこかの別荘にいるみたい」と大好評です。家族や見学者等からも同様にお誉めの言葉を頂いており景観の良さが自慢です。法人全体が自然に囲まれた環境であり、お花見、紅葉と、お弁当や、おやつを食べながら見物できるとても恵まれた場所です。コロナ禍である現状が改善され、隣接するグループホームきたがたと合同で地域の方や家族様が参加できる行事が再開出来ることを望んでいます。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>「自分らしく、ほがらかに」の運営理念を実現すべく、職員は心一つにして力を合わせ、どこまでも利用者を主体とした支援に日々取り組んでいる。利用者の一人ひとりの人格を尊厳し、職員の朗らかで明るい笑顔での対応は、利用者の心を和ませ、職員との良い関係を保つことができている。また、地域のつながりも大切にし、清掃に参加したり、認知症についての相談にのったり、納涼祭参加の呼びかけ、また地域の消防団の協力を得ての避難訓練の実施等、つながりを深めていたが、今年度はコロナ禍で実現できないのが現状である。ただ施設周囲の広い敷地内にある自然公園「美彩の森」は、桜やアーモンドの花が咲き、天気の良い日は利用者の散歩コースとなりコロナ禍でも楽しい支援がなされている。新型コロナウイルス感染予防対策も万全に行われている。</p>
--

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分らしくほがらかに」の理念を、毎日の朝礼で唱和を行い、管理者、職員で共有し、ケアを提供する際の道標と捉えている。ケアの事で迷いがある時は理念に戻り、利用者様の権利や尊厳が損なわれないよう、職員で話し合ったケア目標を基に実践を日々チームで行っている。	開設時に作成された理念は隣接する同法人グループホームと共有している。自然環境に恵まれた地域の中で利用者一人ひとりがその人らしく暮らし続けるための支援を理念に掲げている。職員が目につく場所に掲示され、毎日の朝の申し送りの唱和は、初心に帰り、同じ方向を向いての支援に結びついている。また職員は毎年自分なりの目標を掲げ、介護職に従事する職員としての意欲も伺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍であるため利用者様の外出や苑外活動は基本的に行っていない。ただし、天気が良い日などに周辺を散歩している。事業所としては、地域の美化活動には毎年参加し交流している。コロナ禍でなければお月見会の開催や、敬老会への参加で交流の場があった。以前のように活動できる日がくるのが待ち遠しいです。	事業所は自治会に加入し、地域活動や住民との関わりを積極的に行っていたが、本年度はコロナ禍で実現できなかった。例年入居者の家族や地域の方も参加しての月見会、認知症についての相談に乗る等、事業所独自のいろいろな行事や活動が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所付き合いを大切に、近所の方からの相談事を電話で受ける事もある。そのような時には、実践を通じて培った認知症の人の理解や支援方法を活かし接するように務めている。また、運営推進会議にて、認知症についての啓発を行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者の状況や行事関係、職員が参加した研修、2ヵ月間の全体的な動き等を報告し、それに対する意見や助言、市の新たな取り組みや地元の情報等活発な話し合いがされている。そこでの意見や助言はサービスの向上に活かしている。	地域の理解と支援を得るため有意義な機会としてとらえ、年に6回(事業所単独で3回、隣接の事業所と合同で3回)開催されている。今年度はコロナ禍で参加者の制限はあるが、入居者の状況、行事実施状況、研修会の内容などの報告、また地域からの情報を得たり、事業所としての課題の共有など積極的な意見交換が行われている。各委員はもとより、入居者家族には本人の写真や近況を同封し運営推進会議議事録も郵送している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	公的制度を必要とする入居者の状況を、市の担当者に連絡を行い、連携を取りながら生活に支障が出ないようにしている。また、分からない事や問題が出た時は、市役所などへ相談したり、出向いて協力関係を築いている。	運営推進会議時だけでなく、機会を見つけて管理者が行政の関係諸課に出かけたり、電話で相談や報告をすることで連携を図っている。運営推進会議後に新たに生じた課題や利用者の状況、公的援助に関する事、成年後見人に関する事、申請書類の提出、選挙の投票支援など、多岐にわたって協力関係が結ばれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の勉強会や、研修で身体拘束によるリスクについて理解している。また当ホームでは、定期的に勉強会を行っている。やむを得ず、手すりコールやセンサーマットを使用する際も、家族に了承と理解を得、注意点の周知と定期的なカンファレンスを行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関開錠について現在、日中(9時半～16時半)は開錠している。不法侵入防止の為、職員の数が一人の時間帯は施錠している。	身体拘束がない支援についての研修会が、法人及び事業所独自で開催されており、身体拘束の事例はない。入居者が外出を希望する場合や、その素振りが見えた場合は一緒に同行しての支援である。日中は玄関の施錠はないが、不審者侵入の恐れがあるため、夕方早めの施錠を行っている。スピーチロックによる心の拘束も無いように、言葉かけには留意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の勉強会や外部研修において、入居者の人権を常に意識し、高齢者虐待防止法について学び話し合う機会を設けている。職員は虐待が見過ごされる事がないよう注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「権利擁護」について法人の勉強会や外部研修等で学んでおり、学んだことは皆で共有し、必要がある時は本人と関係者で十分話し合い、成年後見人制度や安心サポートの利用を検討出来るよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は文書に沿って説明を行い不安や疑問点に対しても、十分な説明に努め理解と納得を得たうえでやっている。解約は本人や家族が困らないよう今後のことを十分に話し合い、納得を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からは、日々の会話から意見、要望を聴く機会が多く、可能な限り実現出来るよう努めている。家族には面会や担当者会議時、必要時は電話等で、意見、要望を聴いたり、毎年アンケート実施(近年は年度末に)を定めている。また第三者窓口について説明しホーム内に提示、苦情受付箱を設置している。	入居開始時に重要事項として相談窓口について説明し、意見箱も設置している。また家族アンケートを実施しその結果については、定例の会議で検討し、家族にも郵送で伝えている。家族面会時は相談しやすい雰囲気づくりを配慮しているが、今年度はコロナ禍で面会を制限しており、電話にて連絡を密にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のグループホーム会議や申し送りノート等活用し必要時に、職員から意見や提案があった場合は、代表者や管理者はその内容を検討し、可能な限り意見や提案を運営に反映させるようにしている。	管理者と職員は日常の業務の中でも遠慮なく話ができる人間関係である。毎月行われるグループホーム会議では、コロナ禍における入居者と家族の関わりかたなどが検討され運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回自己評価や作文を職員全員に提出してもらい、個人面談も行っている。また主任や管理者が評価し賞与や定期昇給に反映させ、各自が向上心を持って働けるよう努めている。代表者は個々の作文を通じて就業環境を把握し改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度、認知症介護実践者研修に参加した職員を中心に勉強会を開催し、学んだ事を踏まえたケアの実践に部署全体で取り組みを行いました。それ以外の外部研修参加が新型コロナウイルスの影響で出来ませんでした。内部勉強会は月に1度行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今回研修に参加した職員が同業者との交流ができそこで情報交換ができた。コロナ禍での貴重な経験となった。しかし、他事業所から来ている訪問看護師とは意見交換出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至る前に、可能であれば本人に会い、さりげない会話を通じて相互理解を深め信頼関係を構築し、情報収集に努めている。情報は職員全員に伝え共有し、関係作りがスムーズに出来、安心して本人が過ごせるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学の際や入居申し込みの際に、困りごと、不安なこと、要望等に寄り添い、傾聴し、安心出来る情報提供に努め、家族の抱える想いを十分に受け止め、円滑なサービスの利用が出来るよう信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の抱えておられる問題について、家族や本人、担当介護支援専門員から十分に聞き取りを行い、必要に応じて、在宅サービスや老人福祉施設等の提供または紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の得意分野において、能力を発揮してもらい、長年培ってきた生活の知恵や手順等を、助言してもらう事により、互いに助け合い生きがいを持って生活できるよう配慮している。また、昼食は職員とスタッフがホームで調理した料理を一緒に食べている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、必要用品を届けてもらったり、コロナ禍以前は病院受診後に外食をされる等の機会があった。面会が自由にできなくなった現在は利用者様の精神的な寂しさに寄り添って頂けるよう電話での会話をお願いし協力を仰ぎながら、家族との絆を大切に過ごせるよう、また家族が負担に感じられないよう、家族にも寄り添いながら、共に話し合い支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍である現在、馴染みの人や場所の関係継続支援については出来ていません。そんな中ですが、病院受診では馴染みの看護師や医師と会話をする事で笑顔になられたり冗談を言われたりと、ちょっとした事ですが支援に繋がっているかと考えます。	これまで本人を支えてくれたり、また、支えてきた人間関係や、思い出の場所などの把握に努め、家族の協力で、馴染みの美容室にかけたり、お墓参りや自宅に泊まる方もいたが、コロナ禍で今は実現できていない。電話や絵手紙など馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の会話では、聞こえにくさで繋がらない時や、輪に入れない方もいらっしゃるため、職員が間に入りつなぎ役をする事で孤立がないように支援している。病気の為、言葉がスムーズに出ない方にも職員が関わりを持ち他の方とのコミュニケーションに繋げている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、出来る限り面会や様子伺いを行い、これまでの関係性を大切にしている。また、必要に応じて本人や家族への、相談や支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様との関わりの中で、心に寄り添いながら、細やかな観察を行い、その中から本人の希望や意向を引き出し、表情や会話の中の呟き、行動から発せられるサインも見逃さないよう努めている。家族の面会の際は、希望や意向を尋ね、その内容に沿ったサービスを心がけ、困難な場合は、本人本位になるよう家族に協力を依頼している。	日々の暮らしの中で、一人ひとりのそばに寄り添い、とりとめのない会話やつぶやき、表情の変化、しぐさなどから細やかな把握に努めている。入浴時のゆっくりとした時間や、何気ない会話の中で利用者の希望や意向を把握することも多い。担当制をとっておりその情報は全員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に本人や家族に会い、これまでの生活歴、馴染みの暮らし方等尋ね、フェイスシートに記入全職員が把握できるようにしている。入居後も本人や家族との関わりの中で、常に情報収集に努め、本人の想いを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別ケースに1日の過ごし方、心身の状態や有する能力等を記入、職員が出勤時に必ず目を通すことで、現状把握に努めている。また状態の変化があった時等は、申し送りノートや口頭でも報告し、情報の共有や迅速な対応が出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の生活に対する意向や要望を大切に、介護職員、主治医の意見内容を踏まえ、担当者会議で検討して出た様々な意見やアイデアを勘案し介護計画を作成している。状態変化時は随時個別カンファレンスを行い、ケアの統一を図ることで現状に即したサービスになるよう努めている。	利用者や家族の意向を活かし、利用者が自分らしく暮らせるよう、きめ細かく具体的に計画が作成されている。モニタリングも確実に行われ、利用者の状況によって柔軟に計画の変更も行われている。コロナ禍で面会が制限されている中、家族に電話で意向を聞いたうえで、介護計画書を作成し郵送後電話で説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送りノートに日々の様子や変化、工夫した事、またケアプランに沿って実践した結果や気づきを記入し職員は出勤時に必ず目を通し共有に努めている。また、訪問看護師による訪問看護記録によるアドバイスなど情報を踏まえて、常に意見や提案を出し合い、実践やケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、本人を取り巻く環境で生まれるその時々ニーズに応じ、話し合う機会を設け対応する事で柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍である為ボランティアの受け入れはしていない。状況が改善されたら、行事に地域ボランティアを受け入れ歌や踊りの披露し合うことで、お互いの力を発揮していけたらと考える。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を、大切に安心して医療を受けられるよう、かかりつけ医を継続してもらっている。コロナ禍でなければ、基本的に受診は、家族対応だが、受診が困難な場合は、往診を依頼したり、ホームより受診同行を行っている。医療機関との情報交換を行い適切な医療を受けられるよう支援している。また、内科や眼科の往診、歯科訪問診療の利用も支援している。	利用者や家族が希望する病院、かかりつけ医での受診を支援している。受診にあたっては基本的に家族対応としていたが、コロナ禍で職員が支援している。緊急時の受診も含めた受診体制には利用者や家族の安心感となっている。受診後の結果報告はその都度家族に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、入居者の健康状態の把握に努め、情報を看護職員と共有している。また、訪問看護師と契約しており24時間連絡可能な体制を整えている。状態が変化した場合は、看護師に報告相談し、医師との連携を取りながら、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際は、日頃の生活状態等の情報提供を行っている。また早期退院に向けて、病院関係者との情報交換や相談に努め、定期的に容体訪問も行っている。入居者が、安心して治療を受けられるように、日頃から病院関係者との関係作りにも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合における対応の指針や看取りにかかわる指針を説明している。重症となられた場合は、本人と家族の希望をできるかぎり尊重し、当ホームのできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療との連携を図り、チームで支援に取り組んでいる。看取りになった場合は看取りの体制が整った併設施設に繋ぐ事もある。	指針を備えている。契約時に事業所での方針を伝え、利用者や家族の理解と納得を得ている。体調の変化に合わせ、家族や主治医、関係者と密に話し合い、利用者にとって最適な方法になるよう支援している。看取りができる特養施設が併設しており入所要望が多く、これまで看取りの事例は無い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人にて、消防署からの指導による救急蘇生法やAEDの使用方法、急変時の対応について定期的に勉強会が開催されており、勉強会に参加することで、実践力を身に付けている。また、内部でも同様のテーマで勉強会を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼間と夜間の想定で、避難訓練を行っており、行政、地元区長、近隣の住民の方、地元消防団・婦人会に協力を仰ぎ、地域と一体になった避難訓練を実施している。また、法人の安全管理委員会に、職員が所属しており、防災知識向上への取り組みがなされている。	夜間を想定した訓練が行われ利用者も参加している。コロナ禍で地域住民や消防団の参加が難しく、職員が地域住民の代わりとなり避難訓練を行った。職員は火災報知機、自動通報装置、消火器などの緊急時の対応は熟知している。非常用の備蓄も整っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に、接する際は、目上の方への敬意を持ち、その方の人生背景や性格を考慮し、入居者と職員の距離感に気を付けながら、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けている。入居者様を呼んだり言葉掛けをする際は、基本的には、苗字にさん付けとしている。	利用者の人格を尊重することを支援の基本にしている。利用者を人生の先輩、年長者として敬意をもって接し、さりげない言葉かけや対応に配慮している。個人情報取り扱いについても、契約時に説明し、守秘義務としてきちんと守られている。居室の表札は氏名で無く、代わりに花をデザインしたものを目印として掛けているのも、プライバシーに配慮した工夫である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの人生背景や性格を考慮し、自然に希望や想いの表出ができるよう、雰囲気づくりや職員の振る舞い、言葉掛けにも工夫している。また、コミュニケーションを通して、自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は業務を優先するのではなく、一人ひとりの生活スタイルを大事にした支援を心掛けている。自分のペースで過ごされることを大切に、出来るだけ希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容師を頼み、本人様の希望に沿ったヘアスタイルにして頂いている。愛用品の化粧品等が無くなった場合は、買い物支援で購入される。また、起床後のお洋服選びに悩まれる時は職員のアドバイスを聞きながら選ばれる。洗顔の際は、洗面台にブラシを置いておく事で、鏡を見ながら整容される。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	生活歴を大切に食後のコーヒーを楽しめる方は気兼ねなく飲んで頂かれるように言葉掛けをし提供したり、誕生日には希望により好きなメニュー、行事には特別メニューを用意し、昼食は必ず職員と共に食卓を囲む機会を設けている。 また、食材が届いた際は、一緒に運んだり仕分けを行っている。	配達された食材を料理専任の職員が調理をしている。献立には、家庭で慣れていた嗜好食を取り入れたり、行事や季節に合わせた料理を提供している。コロナ禍で外出もできない中、献立を変更し、焼き肉会を施設内で行うこともあり、利用者の笑顔となる。誕生日は手作りのケーキを提供し、利用者全員でお祝いしている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専門業者の管理栄養士が作成した献立に基づき調理し、一人ひとりの状態や力に合わせた食事量や食事形態を工夫し提供している。10時には好みの飲み物を提供する等変化をつけ、水分量の確保に努めている。 また、食事や水分量は、毎日記録に残し、健康状態の目安になっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯や自歯のブラッシングを促し、磨き残しについては、職員が一部介助することや必要な時は歯科訪問診療時に指導を受け、清潔保持ができています。夜間帯は、職員サイドで預かり義歯洗浄剤に浸け管理している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、排泄用品・用具の選定、さりげない言葉かけやパット確認を行い失敗の減少に努め、安心して自立出来るよう支援を行っている。また、排泄動作に不安がられる方には、見守りや動作の手順をゆっくり説明し、一部介助を行うことで不安の軽減へ繋げている。排泄の失敗があった時は、羞恥心に考慮し素早い対応をし自尊心を傷つけない言葉掛けをおこなっている。	排泄チェック表の活用や排泄サインの活用から、一人ひとりの排泄パターンや習慣が把握できている。さりげない誘導で昼夜共にトイレでの排泄支援を行っている。パットなど汚染していれば交換もさりげなく行っている。排泄が自立している方もそっと見守っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取量の把握に努め、献立には食物繊維やヨーグルト、オリゴ糖等の食品を取り入れることで、便秘予防に努めている。また、個々に合わせた支援を心がけ、散歩や軽運動も促している。慢性の便秘の方には、医師や訪問看護師と連携を図り、服薬のコントロール等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	プライバシーや羞恥心に配慮し、場合によっては同性での対応を行い、ゆっくりと入浴出来るよう個浴になっている。湯温や手順等個々の希望に合わせ、身体リスクのある方には、安全面を考慮している。基本的な入浴スケジュールはあるが、お断りされる時には、無理強いはせずコミュニケーションや別日に対応している。	基本的な入浴日はあるが、お湯の準備は毎日できており、いつでも入浴できる。車いす利用の方には二人の職員で支援している。現在は入浴を楽しみにしている利用者も多く、入浴を嫌がる方はないが、体調に合わせ、入浴ができない時は足浴や清拭などで対応している。脱衣所の空調管理もできている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や希望に応じて、居室や畳の間等で寛いだり、午睡をされている。就寝前は、居室でテレビを視聴したり、共同スペースで気の合う方と談笑されている。また、室温・湿度調整も随時行い、愛用品の寝具で眠られている。不眠時は、不安軽減の言葉掛けや飲み物を提供し援助を行うことで安心されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の服薬状況や効能・副作用等を記載し、いつでも確認ができるようになっている。一人ひとりが服用されている薬について理解しており、症状の変化にも十分に注意している。薬は個別の袋に入れ、誤薬防止のため、4回の確認を行い、服薬の際は、名前、日付を確認の上、服用してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	絵や歌、レクリエーション等の楽しみ、洗濯物畳みや拭き掃除等家事全般、一人ひとりの生活歴や力を生かし、生きがいが喜びのある毎日を過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状では苑外活動、買い物支援は控えている状況である。周辺の散歩は気候の良い日に行っている。家族との面会も制限があるので、状況が早く改善されたと考える。今後、リモート面会もできるようにと予定されている。	コロナ過で外出も制限される中、これまで希望に沿って実現していた買い物やドライブなどの外出支援は控えている。法人敷地内には自然を活かした庭「美彩の森」があり、桜やアーモンドの花が咲き、ゆっくりと寛げるよう椅子やテーブルが設置されているため、天気の良い日は利用者のお気に入りの散歩コースとなっている。例年年間を通して行事計画が作成されており新型コロナウイルス感染の終息を待つ状況となっている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談の上、自己管理出来る一部の方は、お金を所持されている。お金を使いに出かけることは現状ないが、受診後に好きなお饅頭やパン等を購入して頂けるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、家族に電話をかけたたりかけられたりしている。一部携帯電話を持ち込まれており、好きな時に家族と電話で話されている。毎月のホーム便りでは近況報告を行っている。また定期的に電話を頂くご家族には、日々の様子を詳しくお伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各テーブルや壁には季節の花や作品を展示している。廊下の隅には観葉植物を置くなど、季節感や生活感を大事にした設えを心がけている。また、湿度・温度調節も細めに行い、人的環境にも気を遣い、居心地よく過ごせるよう支援している。	リビングの広い窓から見える山と湖が一体となった風景は、利用者の心を和ませている。ウッドデッキには職員と一緒に育てている美しい花が咲き、利用者のお茶の場所になる。畳の間には本が数多く並べられている。玄関からリビングまで長い廊下で、手すりが設置され、利用者のリハビリの場ともなっている。3か所あるトイレや浴室、洗面所などは掃除も行き届き、清潔さが保たれている。新型コロナウイルス感染予防対策も万全に行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドデッキのベンチや玄関の椅子に座って過ごす方、気の合う仲間同士でテーブルを囲みながら、昔話をされる方々、ソファーに座りTVを観る方等、各自ゆっくりとした時間を過ごしておられる。また、畳の間ではソファーに横になり、一人で過ごす時間も大切に出来るよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、テレビやソファー等愛用の品物や位牌を持ってきて頂き、馴染みの品物を置き使用して頂く事で、不安なく安心して過ごして頂く工夫をしている。また自室でテレビを観たり、窓からの景色を描いたり、一人で本を読まれたりと、自由に過ごしていただき、居心地の良い場所となっている。	居室への持ちこみの制限はない。それぞれの方が自宅で使いこなれた好みのものを持ち込まれている。仏壇を置き、椅子、テーブルが置かれ、テレビを見ながら自由に過ごす利用者もいる。壁には家族の写真や趣味の作品が貼られ、利用者一人ひとりの個性的な落ち着いた居室となっている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の残存能力を把握し、トイレや居室に迷われる方のためには、道標や表示を掲示し、不安や混乱の軽減に努めている。また、廊下やトイレ浴室等には、手すりを設置し安全かつ自立した生活が送れるように工夫している。		

**V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)**  
**※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。  (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない